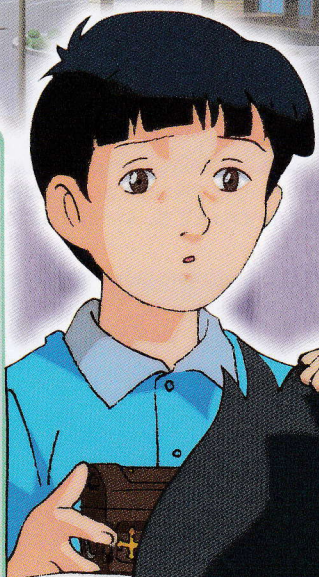


# シンフォニー こころの交響楽

- 企画：北九州市 北九州市教育委員会  
北九州市同和問題啓発推進協議会
- 製作：東映株式会社
- アニメーション製作：ジェイ・シー・エフ
- 声の出演：香川京子/勝生真沙子 ほか
- プロデューサー：古知屋正裕 鎌田幸人
- 脚本：山上梨香 ■監督：西沢信孝
- テーマ曲：まのあけみ



●価格(税別)：16ミリ版¥265,000 / ビデオ版¥80,000

※16ミリ、ビデオの字幕入りもごさいます。【C#6447】

## 映画「こころの交響楽」の訴えていること

北九州市人権啓発映画制作委員長 井上重人

21世紀こそ「人権の世紀」と言えるようにと私たちは誓い努力してきましたが、現実にはテロの続発、民族・宗教間紛争、凶悪犯罪、家庭内暴力、虐待、そして急増する自殺など、人間の尊厳、命の尊さに背くことが相次いでいます。一人ひとりがかもって生きる意義を求め、支え合い、励まし合い、鍛え合う、そんな人間関係の暖かさを深めたいと思い、この映画を制作しました。

我が子に「愛情だ、しつくだ」と言って力で支配しようとする父・俊二に対し、小児科医・響子は小さい時の自分を思い出し、厳しい態度で接します。その時、同僚の松尾医師が「親を責めるばかりでは親が心を閉ざして二度とこちらの話を聞いてくれなくなる。そうなったら子どもを救うことはできない」と諭し、響子は素直に感謝の気持ちで反省します。

小学生の時の恩師・克子から「いいよ、必要だもの、そんな人間が。私、よその家の子にもっとかまっていと思うのよ。悪いことをすれば叱る、元気がなければわけを聞いてやる。そうやって地域ぐるみで子育てをしていけば虐待だって防げると言う」と言われます。地域ぐるみの子育て、近頃は忘れられていないでしょうか。

また、響子は「親とのことで悩んでいる子どもにとって自分のことを理解して受け入れてくれる大人の存在は、暗い道にポツとともった明かりのようなものなんです。私もその明かりになりたいくて小児科医になったんですから」と語ります。

響子と失業中の夫・優作との間でのトラブルについても克子の助言が響子を生き返らせます。夫の愛情に感謝しながらも、世間体を気にし、恥ずかしいから「病院に来ないでほしい」と言い、優作を怒らせます。その話を聞いた克子は、「身内にはつい本音が出るものだから、自分の一番弱くて醜い部分が出てしまう」と話します。響子はうなずき、「家族だからこそ、近くにいるからこそ、ひどく傷つけてしまう。私はその怖さをよく知ってるつもりだったのに」と語ります。夫婦であっても、肉親であっても侵してはならない垣根があることを忘れてはならないと思います。

映画の中では、子育てに悩む若い母親・沙織、年老いて自らを見捨てている徳田、夫に従うのが妻の道と思い自分を忘れていた俊二の妻・春江、そして剛と直の二人の少年、この人たちに対する周りの人たちの優しさが、皆を生き返らせてくれます。人は一人では生きていけません。道を誤る人もいます。その時、支えてくれる人、厳しく叱ってくれる人の優しさが、生きることに戸惑っている心に響く交響楽となって奏でられるのではないのでしょうか。【上映時間43分】

## 《ポイント》

人間の尊厳・命の尊さ、自他共によりよく生きる、  
世間体、高齢者の生きがい等

### 《制作のねらい》

21世紀は人権の世紀と言われていますが、世界に目を向けるとテロや地域紛争などにより人間の尊厳が侵害されています。日本においても、いじめや虐待、夫から妻に対する暴力などがあり、大きな社会問題となっています。

人は、誰もが生まれながらにしてかけがえのない命と人格を備えた個人として存在し、幸せな生活をしたいと願っています。しかし、一方、暴力や力による支配によって、幸せに生活する権利（基本的人権）を奪われている人もいるという現実があります。

この映画では、家庭や身近なところで起こる言葉や力による暴力の問題を取り上げ、「人間の尊厳・いのちの尊さ」、「自他共により良く生きていくためには何が必要か」、「家族のあり方」などを考えていただくために制作したものです。

### あらすじ

辰巳響子(43)は、市民病院で小児科医として働いている。ある日、ろっ骨を骨折した小林剛(9)が急患で運ばれてきた。父親・俊二に叩かれ、テーブルの角に胸を打ちつけたことが原因だった。日ごろから剛に厳しく接している俊二は、剛が嘘をついたからしつけのつもりで叩いたと話した。

入院した剛は、同学年の矢沢直と同室になる。直は喘息で入退院を繰り返している少年で、父親からもらったオルゴールをいつも大事に持っていた。心も傷ついていた剛は、直に対しても心を開けない。響子が優しく問かけると剛は、嘘をついた理由を話し始めた。「お父さんが怒るから。お父さん、ぼくが嫌いなんだ」と剛は泣き出した。響子はその言葉に衝撃を受ける。

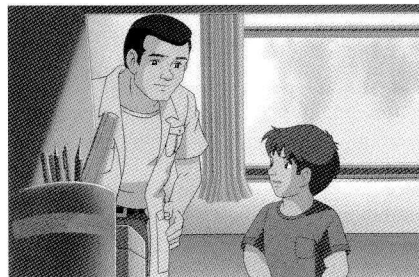
そんなとき、響子の夫・優作が手作りのお菓子を差し入れに病院に現れた。優作は失業中で、職を探しながら家事を引き受けていた。優作の帰宅後、ヘルパーたちが優作のことを、ヒモみたいと言っているのを耳にした響子は、「もう病院に来ないで。私が恥をかくの」と優作に言うのだった。

入院生活に慣れてきた剛は、少しずつ直と話をするようになっていた。だが、「直のお父さんは、直が好きだよ。剛くんのお父さんは、剛くんが嫌いなの？」という直の言葉に傷ついてしまう。思い余った剛は、夜中に、直が大事にしているオルゴールを窓から投げ捨ててしまう。

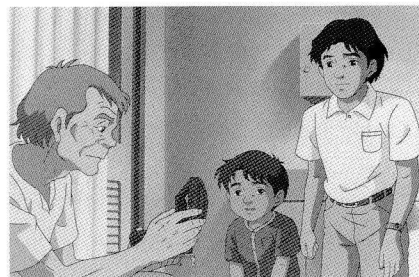
翌朝、直はオルゴールがないことに気づくと剛を責めた。嘘をつく剛。そして、直はそのまま発作を起こして処置室へ運ばれてしまう。直の母親・晶子から、オルゴールは亡くなった父親からの最後のプレゼントであることを聞いた剛は、激しい雨の中、オルゴールを探すのだった。



私、かなりお節介やきになったみたいです。  
いいのよ、必要だもの、そんな人間が



なんで、今まで気づかなかったんだろうな。  
おまえ、いいところ、いっぱいあるのに



ありがとうはわしのセリフだよ。  
こんな年よりも、まだ誰かの役に立つんだな



東映株式会社 教育映像部

<http://www.toei.co.jp/edu/>

関東営業所 東京都中央区銀座3-2-17 〒104-8108 ☎03-3535-3631  
関西営業所 大阪市北区梅田1-12-6 〒530-0001 ☎06-6345-9026  
広島出張所 広島市中区国泰寺町1-5-31 〒730-0042 ☎082-249-3930  
高松出張所 高松市本町11-7 〒760-0032 ☎087-851-3766  
福岡出張所 福岡市博多区中洲4-3-18 〒810-0801 ☎092-262-3101

●お買い上げは……

北辰映像株式会社